

平成30年度 事業報告書

街のにぎわいを見るにつけ、熱海の景気が回復していることは周知のことです。数年前と比較した観光業における就業人数の増加は調査するまでもないことと思います。

さて、シルバー人材センターの状況に目を転じてみますと以下ようになります。

会員数を年度末実績で比較しますと、平成27年度は323人、平成28年度で296人、平成29年度が287人と、過去3年間は減少傾向にありましたが、平成30年度は304人と、若干ではありますが増加に転じました。

請負・委託実績は、昨年度が1,582件 134,787千円でしたが、平成30年度は1,511件 134,215千円で、71件のマイナス、実績金額で572千円の減額（前年比99.6%）でありました。

シルバー人材センターの仕事は「臨時的（臨）」、「短期的（短）」、「軽易的（軽）」が基本となっており、依頼者の要望、あるいは会員の希望を満たす仕事に限られてくるのが実情ではあります。また、年金支給年齢の引き上げによる60歳定年の延長と再雇用制度の拡充もあり、高齢者自身の価値観の多様化など、社会的要因もあいまって、会員数や就業実績の増加を目指すには今後より一層の知恵や工夫が求められます。

委員会活動につきましては、広報委員会における年3回の「シルバーだより」年1回の「シルバーあたま」などの会報の発行、安全委員会による安全パトロール、業務委員会によるボランティア清掃、就労開拓チラシの配布などの活動を行いました。（一覧表参照）

平成30年度の（公社）熱海市シルバー人材センターの状況は以上のように収束しましたが、別の視点から全国のシルバー人材センター会員の統計を紹介しますと、平成18年度には60歳代が過半数を超えていたものが、平成29年度には70歳代が58%と最も多くなり、80歳以上の9%と合わせると67%を占めています。60歳代の割合は10年余りの間に33%と大幅に減少しました。会員の高齢化はさらに進むことが容易に予想されます。

熱海市も例外ではありません。会員の増加策はもちろんですが、70歳あるいは80歳以上の会員の就業に対するサポート体制構築が重要な課題となります。また、会員の皆さまには、働くことのみならず、趣味や楽しみを通しての「生きがい」を提供することで、今後も知恵を絞り健全な運営と発展を目指してまいります。